



とれたて!

和洋電器製作所

クマ対策の自社商品開発

技術とネットワークを活かしたアプローチ



和洋電器製作所

まえの のぶゆき
前野 信之

〒018-4611
北秋田市阿仁水無字大町20-1
TEL:070-9078-3008
<https://r.goope.jp/wayodenki/>



H P

スピーカーの振動板を製造 初めてのオリジナル商品を開発

豊かな自然に囲まれた北秋田市阿仁にある和洋電器製作所は、昭和47年に代表である蒲潤子さんの父が創業した。スピーカーの部品である「振動板」を製造しており、地震や津波が発生した際に使われる「防災スピーカー」などで使用されている。これまでは部品製造のみを行ってきたが、この度初の自社商品を開発した。それがクマとの遭遇回避を目的とした拡声器機能付スピーカー「ベアビビール®」だ。開発を企画・担当した前野信之さんにお話を伺った。

「近年クマの出没が頻繁になり、日常茶飯事となってきました。私は北海道出身で、子どものころから父や祖父から釣りをするときは音を出すよう教えられて育ちました。昔からオーディオが好きで構造を理解していたこともあり、クマ被害を減らすために大きな音が出せて携帯できるスピーカーがあればいいのではと考えて、企画しました。マタギ文化がありクマが生息するこの地域で、音の仕事をしているならやるべきだと思ったんです」。

費用が高額になるため、開発は難航 ネットワークを活かし、実現へ

新商品開発を進めている中で、完全にオリジナルで作ると、思った以上に資金がかかることがわかった。価格に転嫁するにも、現実的ではない。そこで取引先に相談し、既存の部品をうまく組み合わせることで実現にこぎつけた。長年大手メーカーと取引をしていた信頼と実績が商品化を後押ししたのだ。

「これまで使い続けられてきたスピーカーの構造を活かしたことで、コストを抑えられただけでなく、信頼性や耐久性の裏打ちができました。そして何とんでも、乾電池で音が出せるので災害時や、電波の届かない山の中でも使えるという最も必要な条件をクリアしています」。

商品開発に目処がたったところで、わかりやすい商品名として「ベアビビール®」を考案。ロゴと商品名の商標申請のために活性化センターへ相談した。いずれも商標を取得したことで、商品展開も可能となり、スピーカーのほか、クマ撃退スプレーにもロゴを活用してブランド展開を行い、大手ECサイトを中心に販売中だ。和洋電器製作所の商品には、地域への思いが詰まっている。



前野さんが持つのは、クマが嫌がる匂いを噴射するスプレー。隣は代表の蒲さん。



クマに人がいることを知らせるためのスピーカーを操作する前野さん。かなり大きな音が鳴り響く。



ブランドとして認知してもらえるように、ロゴマークを様々な商品に展開している。